



ふれあい通信

2022
4月号



障がいがある方が就職して働き続けるために たまフレ!の就労移行支援



Index

- P2 **特集1** たまフレ!の就労移行支援のゲンバ
就労移行支援たまフレ!の支援について事例と共に紹介します。
- P5 訪問リハのリレーコラム vol.6 **NEW!!** たまフレ!のおしごと その1
- P6 **特集2** いまさら聞けない…
STって何をしているの?
ST(言語聴覚士)の仕事について事例と共に紹介します。
- P8 スタッフ紹介 フジタがゆく! 看護部長 佐藤 奈緒子さん



たまフレ!の 就労移行支援のゲンバ

就労移行支援たまフレ!ではご利用者の成長に合わせた「ステップアップ支援」により、高い就職率を上げています。また就職後も定着支援でこまめな面談を行い、100%の定着率を誇っています。今回はそんなたまフレ!の仕事現場をお伝えします。

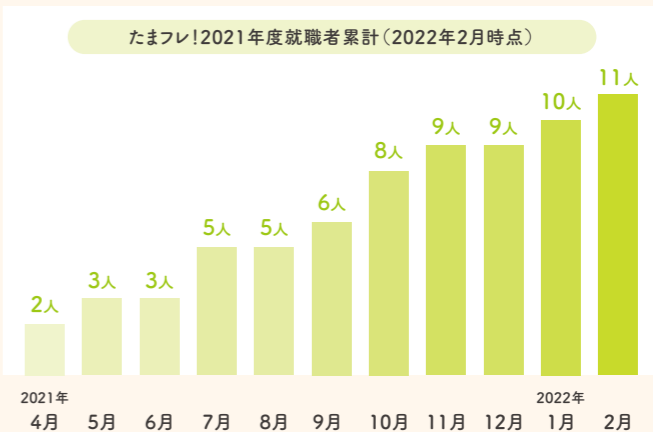


やまぐちりょう
文・たまフレ!所長 山口 竜

ステップアップ支援で
11名就職

2021年度の就職者数は2月の時点で、就労移行支援で9名、就労継続支援B型で2名の合計11名と高水準です。コロナ禍の厳しい状況にもかかわらず多くの就職者を輩出できた理由は、ご利用者の成長に合わせた支援を行ったことが大きいと感じています。

例えば、作業に課題があり就職に程遠い方の場合は、就職活動を行う就労移行支援ではなく就労継続支援B型で作業訓練を行います。ルールの理解や報道相などのコミュニケーションに課題がある場合は自立訓練(生活訓練)を行います。その後、就労移行に移りますが、多くの課題が見られる場合は就労移行支援を中断し、就労継続支援B型に戻り再訓練を行うこともあります。このように3事業を同じフロアで行うことでご利用者の成長に合わせたステップアップ支援ができています。



お試し就職を開始

さらなるステップアップの場所として、昨年10月からグループ内企業に就職する「お試し就職」を開始しました。お試し就職とは、数カ月から1年ほどの短期就労を通して、働くことに自信を持ち、一般企業への就職を目指す取り組みです。実際に1名のご利用者がお試し就職を3カ月間利用し、今年度、一般企業へ就職することができました。

文・たまフレ!
就労移行支援員
しみず みさき
清水 美咲



就職までの過程

1年目

4月～3月 高校卒業と同時にたまフレ!に通所。おもに社会性を中心とした訓練や会社見学を行う

2年目

- 5月 ハローワーク求職登録
- 6月 アパレル店実習応募(不採用)、スーパー書類応募、面接
- 7月 100円ショップ書類応募、面接
- 9月 保健医療基盤実習(3日間)
- 10月 就職活動を続けることを条件に保健医療基盤に就職。スーパー面接、家電量販店にて実習(3日間)
- 12月 大手スーパーマーケット書類応募、面接、採用

スタッフより

1年目はおもに事業所内での訓練を行っていましたが、それだけでは足りないので、2年目からは実習を受けることを勧めました。コロナ禍でもあり数少ない実習でしたが、終えることに着実に成長していく姿を見て、改めて実習の大切さに気付くことができました。Aさんには職員もたくさんのお話を学ばせていただきました。今後も、さまざまな困難と向き合おうと思いますが、Aさんらしく一生懸命に頑張ってもらいたいと思います。



さまざまな訓練を経て、希望する会社へ就職することができました。仕事は大変ですが、精いっぱい頑張っていきたいと思います。



Aさん
20歳男性・軽度知的障がい・
自閉症スペクトラム症

※自閉スペクトラム症は生まれつきの脳機能障がい、人口の1%に及んでいるといわれています。相手の表情や態度よりも文字や図形、物に対して関心が強いなどの特性があります。

経歴 高校生のときに冷凍倉庫で仕分けのアルバイトをする
が2カ月で退職。高校卒業後、たまフレ!利用開始。

就労移行支援を2年間利用後、 目標のスーパーマーケットに就職

するといった独語が見られました。その他にも、表情やジェスチャーから相手の気持ちを理解することが困難、耳から入ってくる情報をうまく整理できずメモを取るのが困難、一度にたくさんすることを覚えられず忘れっぽいといった障がい特性もみられました。書類応募をする際は希望勤務時間を週4～5日の5時間から始めていき、慣れたら増やすように助言するも、自宅にお金を入れたい気持ちが強く「週5日のフルタイムで働く」と言ってかたくなに考えを変えないこともありました。また、思うように書類の作成が進まず、いら立ちを隠せず職員に八つ当たりすることも度々ありました。

就労移行支援で行ったこと

1年目は主に社会性を中心とした訓練や会社見学を行いました。2年目からは本人の就職への意識も高まり、3カ所ほど

課題

通所中は社会性が低いことが一番の課題でした。いすに座ると後方に転びそうなくらい前後に大きく揺れる、フロア内は飛び跳ねて移動するといった多動性、職員の指示や助言に反抗的で言い訳や口答えをする、作業時間中も小さな声で奇声を上げたり漫画のセリフを言ったり

日々の努力は実を結ぶ ～運動の生活習慣は大事だな～

こじま ひろかず
理学療法士 小島 大和



「日々身体を動かすように意識しなければ」と誰しもが頭の片隅にはあると思いますが、「少しぐらい運動したところでそんなに変わらないでしょ」と考えたことはありませんか？

身体を動かすことで、筋力が付き、心肺機能、精神機能といった心身機能に対する効果があるのはなんとなく想像できると思いますが、実は身体活動は脳内の神経を増殖させ、脳の障がいに対するダメージを軽くしやすくとする働きに関わっています。

マウスを使用した実験で、脳梗塞の発症前に運動を行っていた群と、運動を行わなかった群とで比較したところ、運動を行っていた群の方が脳梗塞後の梗塞巣の体積が明らかに小さく、運動機能の改善にも大きな差があったとされています。



これは運動によって脳由来神経栄養因子(BDNF)と呼ばれる脳細胞の増加に欠かせない栄養を多く生み出したこと、脳内で新しく血管を作ろうとする働きが促進されたことで、脳内のダメージに対して耐性が強化されたためだと示唆されています。

つまり身体を動かしておくことは、身体の損傷後の修復を促進し、損傷によるダメージを軽減、さらに守る機能を高めるのにも有効といえます。たとえ毎日の変化に実感がわかなくても、日々運動を心掛けることで病气やけがの予防だけでなく、病气になったときの回復にも影響を与えているんですね。

事例
2

洋服の青山 スーツ着こなし講座

洋服の青山さんのスタッフによるスーツの着こなし方やメンテナンスなどを「着て・見て・聞く」といった形式でレクチャーしていただきました。



たまフレ!就労移行支援員
いのうえ はるき
井上 春希

「スーツの知識がほしい!」
プロにレクチャーしてもらおう

就職の際には必ず面接があり、スーツを着ることがマナーとなっています。たまフレ!では職員がスーツやオフィスカジュアルについての講義を行っています。私は女性のオフィスカジュアルは資料を見て分かる範囲で教えていましたが、詳しくはないので、教えるというよりもご利用者と一緒に勉強をしている感覚でした。そこで「ご利用者に『これでスーツは大丈夫』と思えるものが必要ではないか』と思うようになりました。

その後インターネットでスーツについて調べていると、洋服の青山さんで出張講座を行っているというのを知りました。職員に相談したところ「おもしろそう!」という声もあり、また私が「たまフレ!に新しい風を吹き込みました」という気持ちもあり、開催に至りました。

和気あいあいのスーツ講義で
ご利用者も前のめりに

事前の打ち合わせで、担当の川崎新百合ヶ丘店店長に、福祉の施設であることを伝えたところ「それでは皆さんで実際にスーツを着て、和気あいあいとした雰囲気で行いましょう」とご提案いただきました。当日は女性のご利用者に直接レクチャーしてもらえよう、女性スタッフにも同行してもらいました。さらにオフィス



まずは座学で!
スーツについて学びました



どちらがよいですか?



ネクタイって
こうやって
結ぶんだ!



着心地は
いかがですか?

試着



カジュアルがどういったものか分かるよう、実際にその服装で講義をしていただきました。ご利用者は、講義の前半では硬い表情でしたが、時間が経つにつれて和やかな雰囲気となり、笑顔も見られるようになりました。終盤になるとスタッフに質問をする方や自分から「ネクタイを結んでみたいんですけど教えてもらえますか?」と声を掛ける方も出てきました。店舗で接客をされている現役スタッフにレクチャーしていただいたことで、ご利用者にさまざまな知識を持ち帰ってもらったことができたのではないかと思います。これからも新しいことへ積極的に挑戦していきます。

NEW! たまフレ! のおしごと その1

トラブルを未然に防ぐための 予防策「モニタリング」

相談支援はテレビ番組の「密着警察24時」に例えられることがあります。これは、ご利用者のトラブル発生時に相談支援員へ支援を要請されることが多く、相談支援員が介入することでトラブルを解決するケースがあるからとされます。

相談内容の背景には「金銭管理」「後見」「相続」「粗暴行為」「虐待」「性」「育児」「老老介護」「医療との連携」などのさまざまな問題があります。問題解決がおもな仕事だと思われがちですが、問題を起こさないための「予防」が重要だと考えています。見えないニーズをご利用者や支援者から聞いて、事件や事故が発生する前に、行政や地域、基幹型の相談支援センターと連携し、福祉サービスや地域でサービスを調整しながらの支援で火種が大きくなるようにする「予防策」が重要だと考えています。

して、当事業所のおもな仕事は福祉サービスの調整なので、定期的にご利用者の家庭や事業所を訪問し、困りごとやニーズなどを聞き取る「モニタリング」を重点的に行っています。最低でも3カ月に1回、多い方で毎月1回訪問し「今のサービスとご利用者のニーズがマッチしているか」などを聞き取っています。

今後の相談支援事業は介護との連携が増えてくると予想されます。保護者の高齢化で在宅での支援が困難になり、さらにご利用者自身も高齢化が進んでいます。保護者に対してはケアマネジャーが、ご利用者に対しては相談支援員またはケアマネジャーが支援するという体制が多くなると考えられます。相談支援は情報を整理し、世の中のニーズに合わせた支援を続けていく必要があるため、日々精進が必要な職種だと考えています。



たまフレ!管理者
いino まさしげ
飯干 順正

たまふれあいグループ サービスの空き状況 (2022年4月1日現在)

記号の見方 ◎十分空きあり ○空きあり △残りわずか ▲要相談(待機者少ない) ×空きなし

訪問診療	訪問看護	訪問リハビリ			居宅介護支援事業所	たまふれあいの家			たまフレ!			
		PT	OT	ST		デイサービス	看多機	グループホーム 枳形	グループホーム 登戸新町	障害者計画相談支援	障害者就労継続支援B型	障害者就労移行支援
◎	△	○	○	◎	◎	◎	▲	▲	▲	◎	◎	○

多様な症状・
医療処置対応

胃・腸胃ろう/経鼻胃管/気管切開/
喀痰吸引/TPN管理/パルン・ストマ/
重度褥瘡/呼吸器管理 ほか

地域相談室直通電話番号

044-931-0220

ご相談・お問い合わせ
いつでもお待ち
しております

ST

って何をしているの？

いまなら聞けない...



ST (Speech Therapist: 言語聴覚士) は、脳卒中などの病気や生まれつきの病気、加齢などにより、発声・発語の機能や嚥下の機能に問題がある方に対して、機能の評価や、改善・維持のために必要なリハビリを行います。今回はそんなSTについて詳しくご紹介いたします。

えんげ 嚥下障がい

おもな症状

- 食べ物や水でむせる
- たんがよく絡む
- 肺炎を繰り返す



リハビリ内容

飲み込みの状態の評価、飲み込みの練習、安全な食事方法・食事形態の指導や助言、誤嚥性肺炎の予防のためのケアなどを行います。

失語症

おもな症状

- 言いたい言葉が出てこなかったり、相手の言葉が理解できなかったりして、意思疎通がうまくいかずストレスを感じている
- 文字が書けない・読めない

リハビリ内容

言葉をスムーズに表出する練習、言葉を理解する練習、文字を読む・書く練習、ご本人やご家族に向けて会話方法の指導や助言などを行います。

認知症・高次脳機能障がい

おもな症状

- 物忘れが増えた
- 判断力が低下し、日常生活に支障が生じている
- 注意散漫で落ち着きがない



発声障がい・構音障がい

おもな症状

- 声が異常に小さい
- ろれつが回らない
- 口や舌が動かしづらい



リハビリ内容

残存能力を評価し、自宅などの住み慣れた環境や親しみのある道具を活かした訓練や生活への助言、ご家族など周囲の方への指導を行います。
例えば記憶障がいのある方には、記憶の練習だけでなくノートやスマートフォンなどを利用した補助手段の検討と活

リハビリ内容

これらの脳梗塞や脳出血などの脳卒中、腫瘍・がん、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症などの神経疾患、アルツハイマー病や前頭側頭型認知症、レビー小体型認知症などの認知症、急性期治療後の廃用症候群といった病気で起こることがあります。



回復期病院にて、失語症、嚥下障がい、高次脳機能障がい、認知症の方にリハビリをしていました。ご利用者やご家族の目標の実現に向けたリハビリを第一に考えて、エビデンスに基づいた効果的なアプローチを提供していきます。



かなもり ひでき
金森 英毅

嚥下障がいも失語症も、周囲の方の小さな気づきが、よりよい生活の維持につながる重要なヒントとなるため、普段からご利用者やご家族との会話を大切にしています。おしゃべりしながら楽しくリハビリしましょう！



ながよし なるみ
永吉 成美

ST
スタッフ

事例

STで食事を継続。本人らしい最期に

進行性の神経疾患がある高齢男性の嚥下訓練のご依頼で、亡くなるまでの約半年間のST介入となりました。介入当初は、きざみ食を食べていたが、むせるようになったため、嚥下評価と嚥下訓練のご依頼をいただきました。まず嚥下評価を行い、ミキサー・ムース食を開始するように助言しました。同時に嚥下機能維持のために週1回の嚥下訓練を開始し

ました。

STを開始した約1カ月後に誤嚥性肺炎にかかり、訪問診療医と連携した投薬治療と週2回に増やした嚥下訓練を行いました。食事も再評価を行いました。その結果、主疾患による衰弱が原因で亡くなるその日まで、ミキサー食を食べることができました。最期まで食事ができ、ご本人らしい状態を少しでも維持でき



たことは、ご家族や周囲の方の喜びにもつながりました。

スタッフより

症状がなくてもSTが必要なことも

パーキンソン病をはじめとする神経疾患などの進行性疾患は、進行を遅らせるために早期のリハビリが重要だと考えられるため、まだ症状が顕著でなくてもST介入の意義が高いことが多くあります。実際に当クリニックでは「多少のしゃべりにくさがあるのみで嚥下はまだ大丈夫」というパーキンソン病の方のリハビリ

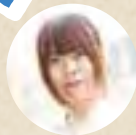
を行っています。

また一般の高齢の方で「最近、咳が頻回に出ている」というご相談から評価をしたところ、実は嚥下障害で「唾液がうまく飲めず、のどに垂れ込んでいたために咳が出ている」ということもありました。気になるご利用者がいらっしやいましたら、まずはお電話にてご相談ください。

全力相談員 フジタによるスタッフ紹介

フジタがゆく!

地域相談室 相談員 藤田 杏



インタビューした人

患者さんの希望の生活をかなえる 看護部長

佐藤 奈緒子さん

医療法人の訪問看護ステーションであり、居宅・看多機でもあるので、ご利用者の状態に合わせた療養場所を関係者と協議しながら考え、生活を支えます!



こんにちは! 相談員のフジタです♥

さて今回は、たまふれあいグループ看護部長の佐藤にインタビューしました!

佐藤は、山形県新庄市(雪深い山形新幹線終着駅!)出身で「新庄市は人口より家畜の数の方が多いのでは?と言われることもあるくらいに、自然豊かな土地です(笑)」とのことΣ(・ω・ノ)!

在宅医療の世界に飛び込む前は、東京女子医科大学消化器病センターに6年勤務し結婚、その後15年間の子育て・専業主婦を経て、たまふれあいグループへ入職しました!

そんな佐藤のモットーは「訪問診療の同行看護や訪問看護業務で、患者さんの自宅の様子を見て、どのような生活をしているのか考え、患者さんや家族が希望の場所で過ごせるように環境を整えていくこと」と「患者さんの背景や家族関係を見て生活を考えること」と熱く語ります。

また、プライベートでは嵐が大好きで、ライブ映像を観ること、飼い猫と遊ぶ(遊んでもらう?)ことが趣味のようです♪なんと!今後は終活に取り組んでいきたいとも…!

「日頃より、クリニックの診療同行業務を行いつつ、訪問看護ステーションの管理者もしています!今後も地域を支える医療法人を目指してまいりますので、よろしくお願いいたします!」と語る佐藤が、皆さまからのご相談・お問い合わせをお待ちしています!



休日の朝ご飯はスタバです。天気がいい日はテラスでいただきます♪



飼い猫たちです。キャットタワーがお気に入りです★

ハワイアンキルト作成と猫が大好きです。



フジタの部屋



2019年に中学校の同級生と江の島を旅行したのが懐かしいです…。



早いもので新年度ですね!たまふれあいグループも新メンバーを迎えて、新たな気持ちでいます(^_^)♪今年度の目標は飲酒量を減らすこと!なフジタですがどうか温かく見守ってやってください<m(__)m>

東北人 フジタのつぶやき

実はべっこばり酒飲みです(・_・;)♪

訳:べっこばり=少しだけ



044-931-0220

〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1763
ライフガーデン向ヶ丘2F

ふれあい通信は、地域相談室のメンバーがつくる「地域とつながる」会報誌です